

中村かずひこ通信



【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.23
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp

☆お気軽にお声をかけて下さい。
お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どんな
もお伺いいたします。
☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！
お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。
ぜひ、意見を！

市民と市政のかけ橋になりたい！

ごあいさつ ～新・真岡市にふさわしいまちづくりを～

市議会議員としての任期も、早いもので折り返し地点に差しかがろうとしています。これまで市民の皆様には、常に温かいご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、市民活動推進センター（コラボレもおか）の開設や、栃木SCとの連携事業の開催をはじめとして、初当選以来議会の中で訴えてきた事柄が少しずつ実現に向かうことができた1年だったと感じています。

しかしながら、真岡市は『住みよさランキング』で全国3位という極めて高い評価を受ける一方で、未だに多くの課題、問題点を抱えています。

今年3月には二宮町との合併も控えています。そうした中であって、現状に甘んじることなく、この合併を1つの契機として、新・真岡市にふさわしいまちづくりに取り組んでいかなければならないと痛感しております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

真岡市議会議員 中村 和彦

※公職選挙法により、議員が年賀状による新年のあいさつを行うことは禁止されています。ご了承下さい。

一般質問が実現しました！

栃木SC『真岡市民デー』を開催



栃木SCのJFL（日本フットボールリーグ）最終戦となった、11月30日（日）の対FC刈谷戦において『真岡市民デー』が開催され、真岡市内から少年サッカーチームの選手達をはじめ約300名の市民が栃木県グリーンスタジアムに駆けつけ、選手達に声援を送りました。また、スタンドでは地元物産の直売コーナーも設けられ、行列ができるほどの盛況ぶりでした。

今春からJ2への昇格を決めた栃木SC。今後もこうしたクラブと地域が連携した事業が継続されることを願うばかりです。

※実現に向けてご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。



挑むべき課題は **まだまだ** あります！

12月定例議会・一般質問



12月定例議会の質疑・一般質問が、8日（月）、9日（火）の2日間にわたって行われました。

今回、中村は最終質問者（9日の5人目）として登壇し、計4件の課題について一般質問を行い、執行部との論戦を展開しました。

（中面に関連記事）

中村が行った一般質問の内容

1. 来年度の歳入見通しについて
(1) 法人市民税について
2. 職員の研修等の課題について
(1) 現在行われている職員の研修について
(2) 市民を対象にした『出前講座』について
3. 市町合併に伴う公共施設の有効活用について
(1) 真岡市民会館、二宮町民会館について
(2) 総合体育館等の体育施設について
4. 脳脊髄液減少症について
(1) 市民への周知について
(2) 学校等での対応について

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで「未来をつくる会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜22号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。
こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日

5月10日（日）

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。



質問:中村かずひこ

中村かずひこ議会レポート

12月定例議会一般質問

答弁者：福田 武隼 市長
佐藤 務 教育長
小松 廣志 総務部長
馬場 照夫 産業環境部長
内田 龍雄 教育次長

※なお、文中で「今年」は平成20年を、「来年」は平成21年を指しています。

1. 来年度の歳入見通しについて



質問 12月定例議会に上程された補正予算案を見ると、**法人市民税を5億6,000万円下方修正**するという異例の対応が取られている。ただし、法人市民税の賦課は、前年度の企業実績に基づいて計算されるものであり、現在の金融不安や輸出関連産業の伸び悩み等については、来年度に大きな影響が出てくる。**来年度の法人市民税は、どの程度の減額が見込まれるのか。また、今年度中間申告により納付された法人市民税のうち、還付金も大幅に増えるものと思われるが、その見通しは。**

答弁 世界的な景気減速のあおりを受けて、**来年度の法人市民税は、今年度の当初予算額24億6,000万円に対して、31%減の16億8,000万円**になる見通しである。また、**還付金の見通し**については、**今年度**が11月末の時点で**4,700万円**(109法人)であり、**来年度も同様**であると予想している。

質問 法人市民税の減収が、今後の市政運営に与える影響について伺いたい。特に真岡市は、**二宮町との合併**を控えているが、かねてから財政面について懸念する声は市民からも上がっていた。そうした中で、**今回の不況**は合併後の市政運営に**影響は出ないものなのか。**

答弁 来年度の予算は現在編成中であるが、法人市民税の減収や、合併に伴う二宮コミュニティセンター(現・町民会館)改修等の公共施設整備が見込まれることから、**約12億円の財源不足**の状況となる。そのため、**財政調整基金や公共施設整備基金を適切に活用**したいと考えている。今後については、**人件費の削減等の合併効果**、さらに**企業立地による税収増**を見込めるものと考えている。

質問 真岡市では、約1,600ある企業のうち、**上位5社で法人市民税の約7割**を納めているのが現状である。**「輸出頼み」の状況すらままならない時代**に突入り、今後工業団地の主力企業が振るわなくなった場合、財政基盤が崩れることも予想される。長期的視野にたつて、**地元企業に対する経営指導や起業家の掘り起こし**を通じて、**新たな地場産業を育成**すべきではないか。

答弁 起業家育成については商工会議所と連携して取り組んでおり、**市商工振興資金の中に創業資金**も設けて支援を図っているところである。今後も(財)栃木県産業振興センター等の各種事業を有効に活用しながら、**起業家育成に努めていきたい。**

2. 職員の研修等の課題について



質問 地方分権時代の到来により、各自治体には自己責任のもと独自の判断で施策を創り上げる必要性が高まっており、**職員の研修制度の充実化は不可欠**なことである。そうした中、平成19年度は自己啓発の通信講座を受講した市職員が大幅に増加したことは大変喜ばしい。しかし、受講内容を見ると、職員本来の業務においてスキルアップにつながるのか疑問に感じる点も多い。今後の研修のあり方について**改革・改善をどう考えているのか。**

答弁 真岡市では、平成15年に**「人材育成基本方針」**を策定したが、二宮町との**合併を契機として見直し**していく考えである。また、県や芳賀広域、市単独で行っている**各研修についても、行政とより密接に関わりのある講座内容**を設け、時代に適応した新しい行政施策の展開や、様々な行政課題に取り組める人材の育成を図っていきたくと考えている。

質問 **「出前講座」とは、市民のもとへ職員が出向き、市の施策や事業について説明**するものであり、あらかじめ講座内容をメニュー化し、公表するのが特徴である。市民へのサービス向上にもつながることであり、加えて二宮町との合併を控えて、市民に正確な行政情報を伝える必要がある。**真岡市でも実施してはどうか。**

答弁 **「出前講座」**については、市民に市政について理解していただき、協働のまちづくりを進めていくために、**生涯学習事業の一環として実施**していきたい。なお、職員による行政に関する講座のほか、**民間講師による趣味や教養の講座**も含めたものにしていきたいと考えている。

3. 市町合併に伴う公共施設の有効活用について



質問 二宮町との合併により、**真岡市内には2つの市民会館**(真岡市民会館と二宮町民会館)が存在することになる。両会館は車で移動しても10分程度と大変近い場所にある。これまでのように、限られた予算でそれぞれが文化事業を展開するのではなく、**目的や機能を分担**すれば、**事業の充実化や市民の利便性向上**が図れると思うが。

答弁 両会館ともに、**小・中・高の利用が約90%**を占めており、利用形態も類似しているため**一方の施設に振り分けることは難しい**と判断している。なお、自主事業については、二宮町民会館が舞台の間口や音響反射板等の施設面で不十分な所があり、**大編成のクラシックコンサートや演劇公演**については**真岡市民会館**で実施していきたい。また、**歌謡コンサートや小編成のコンサート**等は**二宮町民会館**で実施したいと考えている。

質問 現在、**体育施設の利用時間は真岡市が午後9時まで**。一方の**二宮町では午後10時まで**となっている。**二宮町との合併を機に、体育施設の使用時間を延長できないものか。**農作物等への影響により、屋外の体育施設は困難であるにしても、屋内の体育施設については可能であると考え。特に、総合体育館周辺には午後9時以降も利用可能な公共施設が多く、体育施設だけが周辺住民の迷惑になるとはどうしても思えないが。

答弁 **体育施設の使用時間は、**周辺住民の方々の生活環境に配慮するとともに、**小中学生への教育的観点等からも設定されたもので、今後も継続すべきもの**と考えている。一部の利用者については、十分な時間が取れない等の理由により使用時間延長を希望される方もいると思うが、**現行の時間内で有効に利用**していただきたい。

4.脳脊髄液減少症 について



質問 『脳脊髄液減少症』は、**交通事故やスポーツ外傷等**で体に強い衝撃を受けたことにより、脳脊髄液が漏れ出し、**頭痛、めまい、吐き気、気力低下等**の症状が診られる病気である。今から8年前に初めて症例が発表されたもので、歴史が浅く認知度も低いが、**潜在的患者は全国で30万人**にもものぼると言われている。治療法も国の保険適用外となっているが、自治体としても取り組めることはあるのではないだろうか。この『脳脊髄液減少症』について、どのような認識を持っているのか。また、**ホームページの活用、相談窓口の設置等**により周知徹底を図るべきではないか。

答弁 最近、『脳脊髄液減少症』に対する**新しい治療法**の有用性が報告されているが、**未解明な部分が多く**、現在も専門家による検討が行われている。こうしたことから、この病気に対して確立された見解は見だしにくく、**ホームページでの周知**については**非常に難しいもの**がある。また、**相談窓口の設置**については、現在行われている**一般的な健康相談**で対応していきたい。

質問 **スポーツの事故は学校の現場でも起こりやすい**。平成15年、大分県で中学2年生がボールに当たり、原因不明の頭痛や記憶障害に悩まされ、1年以上経過してから『脳脊髄液減少症』であることが分かった例がある。**文部科学省**から平成19年5月に『学校におけるスポーツ外傷等の後遺症への適切な対応について』という**事務連絡**が出されたが、その後、真岡市教育委員会と各学校では**どのような対応**をしてきたのか。また、この病気によって**不登校に至るケース**もある。**情報提供と実態把握を早急に行うべき**ではないか。

答弁 文部科学省からの事務連絡を受けて、県では小・中・高の**養護教員を対象に研修会**を行った。真岡市教育委員会でも、**市内全小中学校に通知**をして周知を図ったところである。今後、『脳脊髄液減少症』の情報収集に努め、『**保険だより**』等を通じて**保護者にも周知**していきたい。

再質問・再々質問・要望



法人市民税(還付金)について

質問 来年度の還付金については今年度と同様とのことであったが、『**100年に1度の経済危機**』と言われる状況の中で、**今までの経験則で大丈夫なのか**という疑問が残る。今年度と同様と予測を立てた根拠は何か。

答弁 **法人市民税の還付金**については、**過去10年間**の中で最低が平成9年度の1,400万円、最高が平成17年度の7,600万円、**平均すると約3,600万円**となる。今後も企業収益の悪化は続くものと見られ、還付金の増加につながると考えられるが、**中間納付額の減少も見込まれる**ため、還付額が特に多くなるとは考えにくい。

法人市民税(地場産業の育成)について

質問 **人口減少**の流れの中で、**大手自動車メーカー**等でも2005年頃から**国内での販売台数は減少**している。日本の経済が『輸出頼み』になるのは当然のことである。しかし結果として、**他国の経済が立ち直らない限り、わが国は景気を回復できない状況**になりつつある。そう考えると、**新たな地場産業の育成**がこれまで以上に必要ではないか。

答弁 栃木県では、新たな事業活動が相当見込める**真岡市をはじめとした5市4町を対象**として『**とちぎ新事業創出事業環境整備構想**』というものを策定している。これにより、多様な分野の創業を促進させ、バランスある産業構造にしていきたいとしている。したがって、**市独自の独自事業ではなく、関係各機関と連携**を図りながら取り組んでいきたい。

要望

今後、日本の経済を立て直すためには、**小規模ながらも高付加価値の商品を生み出す事業体をどれだけ多く育てられるか**がカギになるのではないだろうか。関係各機関との連携が大切なのは分かるが、それを十分活かすためにも**市独自の取り組みが必要**であるので、今後十分検討していただきたい。

職員の研修について

質問 真岡市は今年、東洋経済新報社の『住みよさランキング』で全国3位という高評価を受けたが、その一方で日本経済新聞社が発表した『**行政革新度ランキング**』では**全国806市・区の中で595位**となっている。真岡市が何もやっていない訳ではないが、周りはもっとやっているということであり、その取り組みはもっと学ぶべきである。**職員の研修**について見直しを図りたいとのことであるが、**具体的にはどう見直すのか**。

答弁 現時点で具体的な方向性は示せないが、来年3月23日に**二宮町との合併**を控えている。両自治体間には様々な違いがあり、**職員間で目的を共有化**させることが最低限の取り組みである。**その上で、次のレベルを目指して『人材育成基本方針』をより高度なレベルのものにすることを考えていきたい**。

体育施設の使用時間について

質問 **スポーツ交流館のフットサル場**の利用者数を見ると、開設前は**年間1万9,000人と予想**していたが、**実際は10か月間で約8,900人**と大幅に下回っている。この点についてはどのような認識を持っているか。体育施設の使用時間の短さが大きな要因と思われるが。

答弁 現状については指摘の通りであるが、それぞれのチームに対して**職員が宣伝活動等**の利用促進を図っているところであり、**今後利用者は増加するものと考えている**。

質問 仕事を持った青年層がスポーツをしようと思っても、使用時間が午後9時までではなかなか利用ができないということではないだろうか。**佐野市や足利市等、午後10時まで使用可能な自治体もあるが**、二宮町との合併協議会の中ではそうした議論はなかったのか。

答弁 合併協議会の中で調査をしたところ、県内他市で体育施設の利用時間は、午後9時までが6市、9時半までが4市、10時までが3市であった。**真岡市の場合、午後9時いっぱいまでスポーツをすることが可能であり、9時半までに片付けをし、退出しなければならない市と実質変わらないことが分かった**。さらに、管理を委託しているシルバー人材センターのことも考慮すると、午後9時までというのが妥当ではないかと考えている。

脳脊髄液減少症について

質問 『脳脊髄液減少症』を発表した医師(国際医療福祉大学熱海病院 篠永正道教授)は、**この8年間で約3,000人の患者の治療**にあたってきた。また、**文部科学省が事務連絡**を通じて各学校に適切に対応するよう呼びかけている。これらの現実について、どのように考えているのか。

答弁 約3,000人の患者が治療を受けたということは知らなかった。また、不登校の要因になっている指摘されていることで、文部科学省が事務連絡を出したのだろう。**詳細は分からない**。

質問 原因不明の頭痛や気力低下に悩んでいる人がいることを考えれば、医学界で未だに認められていない病気だからこそ、**真岡市**のような自治体が**情報提供**をし、**相談に応じる必要があるのではないか**。

答弁 そうした医療相談については医師会等が行うべきであって、**真岡市が行うものではない**と考えている。



みんなで考えてみませんか？ 真岡市の課題

住みよさ 行政革新度 行政サービス水準 真岡市は、3位・595位・389位

東洋経済新報社が今年度発表した『住みよさランキング』において、真岡市は全国806市・区の中で、3位という極めて高い評価を受けました。その一方で、日本経済新聞社がこのほど実施した、『行政革新度調査』では595位、『行政サービス水準調査』では389位と、いずれも栃木県内の市では最も低い(不明の矢板市、さくら市を除く)結果となったことが明らかになりました。二宮町との合併を控え、新たなまちづくりを進める上で、「住みよさ」のさらに次の一手をどう考えるかが今後の課題になると考えられます。

住みよさランキング

総合3位

安心度：34位 利便度：79位
快適度：11位 富裕度：112位
住居水準充実度：569位

行政革新度

総合595位(CCC)

透明度：BB 効率化・活性化度：CCC
市民参加度：CC 利便度：CCC

※評価は最高がAAA、最低がC

行政サービス水準

総合389位(130.9点)

子育て環境：36.3点 高齢者福祉：23.2点
教育：15.6点 公共料金等：28.9点
住宅・インフラ：26.9点

※満点は各分野60点、総合が300点

【参考資料】

県内他市の調査結果
(数字はいずれも全国での順位)

	宇都宮	足利	栃木	佐野	鹿沼	日光	小山	大田原	那須塩原	那須烏山	下野
住みよさ	94	345	375	245	501	533	61	321	167	695	249
行政革新度	182	225	315	283	473	161	47	480	539	513	340
行政サービス	52	162	256	153	129	26	23	201	113	357	175

※矢板市、さくら市は不明(未解答と思われる)

コラム ずーむあっぴ

今の日本はピンチか？チャンスか？。私たちの年代が就職活動に悪戦苦闘していた10数年前、とある新聞社のキャッチコピーにそのようなものがあった。当時の日本も「失われた10年」と言われる不況の真ただ中にいた。昨年の秋頃から、世界的な景気後退の波が急速に日本にも押し寄せてきている。しかし今回の不況は、従来のものとは意味合いが全く異なっているように思えてならない。

自動車産業界の「勝ち組」と言われたような企業でさえ、国内での販売台数はここ数年減少し続けているという。これまで「いざなぎ」や「バブル」を超える長期間の好景気と言われていたにも関わらずである。

人口減少時代の本格的な到来により、国内での購買者層が相対的に減り始めている何よりの証しだろう。結果として「輸出頼み」の流れに向かうのは当然のことかも知れない。しかし冷静に考えれば、日本は今、自国民の力だけで経済を立て直せない状況に置かれているということになる。このことはもっと重く受け止めるべきではないだろうか。

今後も「輸出頼み」の状況が続いた場合、日本の景気回復は、サブプライムローン問題の影響を強く受けた各国の経済が立ち直るのを待たねばならず、2年程度の期間を要すると多くの専門家が予測している。その一方で、日本国内では労働人口の減少により、2010年頃から「オフィス余り」「工場余り」が各地で急速に進むと以前から指摘されてきた。今後迎える景気回復も、

今の不況はピンチか？チャンスか？

地方経済の活性化とは必ずしもイコールでない可能性がある。

そうした中、真岡市では平成19年度、32億6,000万円もの法人市民税が納められた。その内訳を見ると約7割が、市内にある約1,600ある企業のうち、工業団地内の5社によって納められていたのが現状だという。さきに述べた指摘と重ね合わせると、今後に大きな不安が残る。

さて、徳島県上勝町という人口約2,000人の山間の町で、高齢者たちが山の葉っぱ等を集め、中には1,000万円近くの収入を得ている人までいることはあまりにも有名な話である。多くの商品が国内では売れなくなっている今日において、そうした現象が起きていることは極めて興味深い。

人口減少時代を迎えた今日、各自治体に求められていることは、自分たちの地域の文化や産業等を再評価しながら、たとえ小さくても、高い付加価値の商品を生み出す事業体を、どれだけ多く育てることができるか…、「小規模・高付加価値・多品種」がキーワードになるように思えるのである。こうした流れは決して奇抜なものではなく、イタリアの中で経済が奇跡的に復興した「第三のイタリア」でも同様の取り組みが見られたと言われている。

緊急の景気対策や生活支援を打ち出す一方で、日本人の価値観そのものや産業政策を大きく見直さない限り、根本的な問題解決の糸口は見いだせないのではないだろうか。

改めて聞きたい。今の不況はピンチか？チャンスか？

中村かずひこと未来をつくる会

中村のクリーンな政治活動を支える「中村かずひこと未来をつくる会」では個人献金に限り、カンパを受付けています。頂いたカンパは政治資金規正法にもとづいて適正に処理します。

※入会希望の方は
中村までご連絡下さい。

(振り込み先)
真岡信用組合本店
普通口座 2099671

中村かずひこと未来をつくる会
代表 中村和彦



中村かずひこと活動目録

- 10/1 市政功労者表彰式
県議会予算委員会を傍聴
- 3 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会
- 4 西真岡保育園運動会
- 5 真岡青年会議所例会
- 6 あいさつボランティア
真岡青年会議所理事会
「ひばりの会」定例会
- 7 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会
- 8 芳賀教育美術展
- 10 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会
- 11 真岡の自然観察会トンボの池管理作業
- 12 真岡地区地域公民館まつり
もおか木綿ふるさとまつり
- 14 新潟県阿賀野市との「災害時における相互応援協定」締結式
- 15 真岡青年会議所次年度理事会
- 16 国民健康保険運営協議会研修(於:茨城県つくばみらい市)
- 17 「もおかコットン債」抽選会
真岡市民ゴルフ大会表彰式
- 18 日本商工会議所青年部第28回関東ブロック大会真岡大会
- 19 芳賀教育美術展
- 20 あいさつボランティア
- 21 議会だより編集委員会
- 22 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会
- 23 老人・身障合同スポーツ大会
- 26 栃木市協働まつり
- 27 あいさつボランティア
県南6市議会議長会研修会
- 29 真岡青年会議所市民意識向上委員会
- 11/4 「ひばりの会」定例会
パーキンソン病「あゆみの会」意見交換
真岡青年会議所理事会
芳賀郡市町議会議員自治研修会
真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会
- 8 真岡の自然観察会トンボの池管理作業
- 10 あいさつボランティア
- 12 真岡東小学校訪問(「ひばりの会」の活動として)
会派建議要望の回答書受け取り
- 13 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会
- 16 大谷地区文化祭
- 11/17 あいさつボランティア
栃木SCサッカー教室
- 18 真岡市教育祭
- 18-20 清溪セミナー(於:東京・日本青年館)
- 20 真岡青年会議所次年度理事会
- 21 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会
- 23 真岡青年会議所例会
議会運営委員会
真岡地区PTA連絡会との懇談会
- 26 真岡青年会議所例会
- 29 電ヶ崎市立城西中学校を視察
- 30 真岡西小学校区青少年健全育成大会
栃木SC「真岡市民デー」(JFL最終戦)
- 12/1 あいさつボランティア
議員協議会
12月定例議会開会
一般質問の通告書提出
2 市役所担当課との接見
3 真岡青年会議所市民意識向上委員会
4 叙勲祝賀会
5 真岡市消防団本部役員・部長懇親会
真岡青年会議所理事会
「伊夜日子会」奉仕作業
- 7 あいさつボランティア
議会運営委員会
質疑・一般質問1日目
認知症サポーター講習会
議員協議会
- 9 質疑・一般質問2日目
※この日、5人目として登壇
真岡青年会議所理事会
- 10 真岡青年会議所総会
- 11 総務常任委員会
- 15 12月定例議会閉会
議会だより編集委員会
「ひばりの会」定例会
- 16 「ひばりの会」定例会
- 19 真岡青年会議所市民意識向上委員会
- 20 北関東自動車道 真岡IC~桜川筑西IC開通式
27 長野県・佐久総合病院を視察(「都市政策フォーラム」の活動として)